

あいさい通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

からたちの花

愛西市の代表的な旧跡として「佐屋宿」がありますが、江戸時代末期に出版された『尾張名所図会(下図)』には、佐屋代官所周辺の風景として「枳殻(きこく)の垣根」が描かれています。この垣根は現存しており、今年1月10日の中日新聞日曜版にも紹介されました。



枳殻、すなわち、カラタチは、ミカン科カラタチ属の落葉低木で、原産地は中国で日本には8世紀頃には伝わっていたとされ、名前は、唐橘(からたちばな)に由来します。鋭い刺があることから、泥棒除けとして生垣に使われていましたが、ブロック塀などに置き換えられて、1960年代頃には減少してしまいました。また、古くから、未成熟の果実を乾燥させたものは枳実(きじつ)と呼ばれる生薬として、健胃作用、利尿作用、去痰作用があるとされて利用されており、最近では、抗癌作用があると認められて研究が進んでいるそうです。さらに、含有成分に蚤や蚊を除ける効果があるとする説もあるようですが、その根拠となる資料は探せませんでした。

ところで、からたちというと、歌は知っているが、本物の花は見たことがないという人が多いのではないのでしょうか。日本の童謡・文部省唱歌「からたちの花」は、北原白秋作詞、山田耕筰作曲で、2007(平成19)年に日本の歌百選に選出され、同名の映画も作られました。また、「からたち日記」は、西沢爽作詞、遠藤実作曲により1958(昭和33)年に発表され、島倉千代子が歌った昭和歌謡の代表作で翌年には同名の映画も公開されました。

春、からたちは芽吹きと共に白い花を付けます。佐屋代官所跡前にあるからたちは、樹齢二百年以上の大木が3本残っているようで、樹も花もたいへん優雅です。

(左図矢印：尾張名所図会に描かれた枳殻の垣根)



「祭りへの情熱の継承」



2月20日（土）・21日（日）、愛西市文化会館に於いて、愛西市主催によりユネスコ無形文化遺産登録に向けての啓発事業「祭りへの情熱の継承」が開催されました。

20日（土）・21日（日）には、尾張津島天王祭市江車の歴史を伝える古文書や掛け軸、そして、現代の祭内容を紹介する写真などの展示がありました。

21日午前10時45分から、教育委員会により、市江車の鉾持ち衆による飛び込みと奏楽団による演奏の実演を交え、スライドショーによる市江車行事の紹介がありました。

午後1時から、奏楽団演奏後、文化庁の守山弘子氏による記念講演「ユネスコ無形文化遺産—国際的な保護の試み—」があり、講演後の午後2時40分から中京大学の鬼頭秀明氏をコーディネーター、守山弘子氏をアドバイザーとし、愛知県内で候補となっている尾張津島天王祭、犬山祭、知立祭、亀崎潮干祭（半田市）、須成祭（蟹江町）の各保存団体代表者をパネリストとしたパネル

ディスカッション「祭りの継承について」が開催され、鉾持ち衆や奏楽団など少子化に伴う祭を保存する人の育成、高額な山車や衣類など文化財維持、などに伴う課題とその対応などについて意見が交換されました。

残念ながら、20日（土）午後予定されていたウォーキングは雨天のため中止となりました。

今回参集した犬山祭、知立祭、亀崎潮干祭は春のお祭であり、今年の日程は、

犬山祭	犬山市の針綱神社周辺	4月2（土）・3日（日）
知立祭	知立市の知立神社周辺	5月2（月）・3日（火）
亀崎潮干祭	半田市の神前神社周辺	5月3（水）・4日（木）

です。今年は尾張津島天王祭と一緒に遺産登録に向けて頑張っている祭を見てみましょう。

野鳥の宝庫・愛西市

2月のある日、「愛西市のどの辺りにギンムクドリが居ますか？」と観光協会に問い合わせのお電話をいただきました。調べてみるとギンムクドリ（銀椋鳥）は、主に中国南東部に生息する鳥で、冬鳥、あるいは、旅鳥として、稀に日本に飛来するそうです。日本野鳥の会のお話しによると、立田北部小学校付近にいるムクドリの群れの中に珍しい数羽が混じっているそうです。ムクドリは、ウグイスと同様に里と山とを渡る鳥で、秋から春にかけては、愛西市周辺で群れとなっています。あらためて愛西市西部で探鳥してみると、多種多様の鳥を発見でき、愛西市の豊かな自然は、野鳥の宝庫であることを認識します。

難しかった あいさいジュニア検定

2月27日(土)愛西市文化会館において観光協会主催で「第1回あいさいジュニア検定」が実施され、市内の熱心な小・中学生15名が受講しました。

そして、3月12日(土)に合格証交付式があり、記念品と合格証書が授与されました。合格した生徒さんからは、「問題は難しかったが、検定受験により愛西市を知ることが出来た」と主催者にとって嬉しい意見が出ました。

来年、第2回検定を実施しますので、是非挑戦してね。



横井也有 と 荒子梅苑・梅まつり

3月5日(土)から21日(祝・月)まで、名古屋市中川区にある荒子公園で、荒子出身の戦国武将・前田利家の家紋に因み、“荒子梅苑梅まつり”が実施されていました。この内、5日(土)6日(日)には、荒子観音寺横にある荒子集会所で盆梅展が開催され、愛西市藤ヶ瀬町の協力で、藤ヶ瀬町に在所があった江戸時代の尾張藩重臣だった横井也有の梅に関する俳句などの掛け軸の展示がありました。この展示会には、あいさいボランティアガイドの会も協力し、会場で荒子学区の町おこしグループと交流を深めることができ、特に、愛西市と中川区とをつないでいる佐屋街道について情報交換することができました。



なお、3月1日(火)から6日(日)には、横井也有の俳句に登場する植物が植えられている也有園がある名古屋市東山植物園でも、特別企画展示『東山植物園誕生への想い』が開催されていました。一方、2月6日(土)から3月11日(金)まで、愛西市八開郷土資料室で、企画展示会『あの時のキ・オ・ク』が、また、6日(日)には、弥富市総合社会教育センターで、海部歴史研究会主催による講演会『木曾川河口地帯の新田』が開催されました。

桑名・住吉入江と揖斐川の視察会・交流会

3月11日(金)、三重県桑名市にある六華苑周辺で、午前にも木曾川下流河川事務所が管理している桑名市・住吉入江と揖斐川にある橋や水門の年度点検を兼ねた視察会が実施されました。また、午後、六華苑で木曾三川下流地区広域観光連携協議会が開催され、協議会に参加している四市一町にあるボランティアガイドの会の紹介と桑名市の講演、その後、桑名市のボランティアガイドさんが案内する東海道散策会と六華苑見学会が実施され、あいさいボランティアガイドの会メンバーも参加し、みなさんと交流することが出来ました。次の協議会は今年7月に弥富市で実施予定です。



子授け・安産祈願の仏像御開帳

愛西市草平町に養性寺という寺院があります。横川山養性寺は、浄土真宗大谷派の寺院で、毎年4月15日10時より「腹籠りの本尊」の法要をされており、12時頃に胎内佛がご開帳披露されます。この仏像は胎内佛としては比較的大きく、珍しくかつ貴重です。この仏像は、子授け、安産祈願にご利益があるとされますので、特に愛妻さんにおすすめです。この機会に是非一度ご参拝下さい。



～ 観光協会が関連する 今後の予定 ～

3月26日(土) 木曾川観光船 運航開始

運航は土日祝日、一日一便9:30出航、予約により臨時便あり。

4月2日(土) 商工会主催 桜まつり (於:立田会場(船頭平)、八開会場(鵜戸川))

4月16日(土) 木曾三川公園チューリップ祭にて出店 (於:木曾三川公園)

4月23日(土)～24日(日) 尾張津島藤まつりにて出店 (於:津島市天王川公園)

4月29日(祝) 名鉄ハイキング (コース:佐屋駅、道の駅立田ふれあいの里 他)

5月8日(日) 木曾三川交流レガッタ (於:木曾三川公園)

5月15日(日) 信長生誕を育む会 (於:勝幡町)

5月26日(木) 愛西市観光協会、VG会 各総会 (於:愛西市文化会館)

V G 4月定例会の予定

集合時間:4月9日(土)9時30分 集合場所:八開農業管理センター

内容:5月行事について、高畑水没遺跡の視察(下記説明参照、於:塩田港)

あいさいボランティアガイドの会 3月定例会 議事録

◆会議(3月20日(日)9時～ 於:愛西市文化会館 21人出席)

1) 3・4月に予定されている催事、ガイド依頼、他について、対応を確認しました。

2) 事務連絡

①3月の活動結果(3頁参照)について報告し、また、入手資料を配布しました。

②組織継続に伴い、活動保険、会員異動(委嘱状、副会長)などについて現状を説明しました。

会員継続は3月30日(水)迄に回答下さい。年会費2,000円は4月定例会にご用意下さい。

3) 4月定例会について、日程変更、予定内容(下記)を説明しました。

4) 今後のVG活動について意見交換しました。

<高畑水没遺跡>大潮の日、愛西市高畑町の木曾川には、不思議な風景が広がります。木曾川に水没している江戸時代の木曾(長良)川堤防跡で、干潮の時だけ水面に現れます。この地形が現在も愛知岐阜の県境となっており、ここから下流は、対岸の背割堤も愛知県の愛西市となります。

